



## 2024年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2023年8月4日

上場会社名 株式会社ダスキン 上場取引所 東  
コード番号 4665 URL <https://www.duskin.co.jp>  
代表者 (役職名) 代表取締役 社長執行役員 (氏名) 大久保 裕行  
問合せ先責任者 (役職名) 執行役員 経営企画部長 (氏名) 江村 敬一 TEL 06-6821-5071  
四半期報告書提出予定日 2023年8月10日 配当支払開始予定日 ー  
四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無  
四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

### 1. 2024年3月期第1四半期の連結業績(2023年4月1日～2023年6月30日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年3月期第1四半期	43,631	6.6	2,020	△24.5	2,597	△22.4	1,678	△18.5
2023年3月期第1四半期	40,940	3.7	2,674	△2.7	3,345	△1.0	2,059	△9.0

(注) 包括利益 2024年3月期第1四半期 2,782百万円 (11.5%) 2023年3月期第1四半期 2,496百万円 (54.6%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2024年3月期第1四半期	34.75	34.73
2023年3月期第1四半期	41.66	41.64

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2024年3月期第1四半期	194,518	150,946	77.4
2023年3月期	197,524	151,774	76.6

(参考) 自己資本 2024年3月期第1四半期 150,544百万円 2023年3月期 151,360百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2023年3月期	—	40.00	—	48.00	88.00
2024年3月期	—	—	—	—	—
2024年3月期(予想)	—	35.00	—	43.00	78.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 2024年3月期の連結業績予想(2023年4月1日～2024年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	86,200	5.2	2,300	△56.6	3,300	△50.3	2,000	△55.9	41.24
通期	178,700	4.8	4,500	△47.9	6,500	△42.9	4,400	△38.9	90.72

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※注記事項

(1) 四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無  
新規 一社 (社名)、除外 一社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

2024年3月期1Q	50,994,823株	2023年3月期	50,994,823株
------------	-------------	----------	-------------

② 期末自己株式数

2024年3月期1Q	2,872,475株	2023年3月期	2,492,646株
------------	------------	----------	------------

③ 期中平均株式数(四半期累計)

2024年3月期1Q	48,311,587株	2023年3月期1Q	49,440,865株
------------	-------------	------------	-------------

※四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	4
(3) 連結業績予想等の将来予測情報に関する説明 .....	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 .....	5
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	7
(四半期連結損益計算書) .....	7
(第1四半期連結累計期間) .....	7
(四半期連結包括利益計算書) .....	8
(第1四半期連結累計期間) .....	8
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	9
(継続企業の前提に関する注記) .....	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	9
(セグメント情報等) .....	10

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

## (1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間(2023年4月1日～2023年6月30日)の我が国経済は、5月に新型コロナウイルス感染症(以下「コロナ」という。)の「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律(感染症法)」が定める五類感染症への移行に伴い各種行動制限が段階的に緩和されるに従って緩やかに持ち直す状況にある中で、平均賃上げ率が近年で最も高い水準となる等、雇用・所得環境の改善が進み、個人消費の回復が期待される状況となりました。一方、ロシア・ウクライナ情勢の長期化、エネルギー価格や原材料価格の高騰に加えて、急激な円安進行等の下振れリスクを抱え、先行きの不透明感が高い状況が続きました。

そのような環境の中、長期戦略「ONE DUSKIN」の最終第3フェーズ「中期経営方針2022」(2023年3月期～2025年3月期)の2年目を迎えた当社は、訪販グループにおいては、サステナブルな洗浄・物流体制を目指して前期に開始した、マット・モップへのRFID(電子タグ)取り付けの本格化、前期に直営及び関係会社で検証を進めたクリーンサービス事業(ダストコントロール商品のレンタルと販売)家庭用営業専任組織の加盟店への拡大、フードグループにおいては、ミスタードーナツの顧客体験(CX)価値向上を目指した「Uber Eats」「Wolt」によるデリバリーサービス導入決定(サービス開始は7月10日)、更には、地域社会における新事業の創出等産業振興に寄与し、関西の地域経済活性化や雇用の確保に貢献していくことを目的とした、池田泉州キャピタル株式会社が運営する「関西イノベーションネットワーク2号投資事業有限責任組合」への出資等、基本方針に沿った取り組みを進めました。

当第1四半期連結累計期間は、訪販グループが減収となったものの、フードグループ、その他が増収となったことにより、連結売上高は前年同期から26億91百万円(6.6%)増加し436億31百万円となりました。利益面につきましては、フードグループの増収に伴う売上総利益の増加があったものの、訪販グループが計画に沿って戦略的投資(RFID(電子タグ)取り付け)を進めたことで原価が大幅に増加したこと等により、連結営業利益は前年同期から6億54百万円(24.5%)減少し20億20百万円、連結経常利益は前年同期から7億48百万円(22.4%)減少し25億97百万円、親会社株主に帰属する四半期純利益は前年同期から3億81百万円(18.5%)減少し16億78百万円となりました。

(単位：百万円)

	前第1四半期 (2023年3月期第1四半期)	当第1四半期 (2024年3月期第1四半期)	増減	
			増減	増減率 (%)
連結売上高	40,940	43,631	2,691	6.6
連結売上総利益	18,915	18,993	77	0.4
連結営業利益	2,674	2,020	△654	△24.5
連結経常利益	3,345	2,597	△748	△22.4
親会社株主に帰属する 四半期純利益	2,059	1,678	△381	△18.5

## &lt;セグメント毎の状況&gt;

## セグメント別売上高

(単位：百万円)

	前第1四半期 (2023年3月期第1四半期)	当第1四半期 (2024年3月期第1四半期)	増減	
			増減	増減率 (%)
訪販グループ	27,089	26,903	△185	△0.7
フードグループ	10,716	13,428	2,712	25.3
その他	3,954	3,984	29	0.7
小計	41,760	44,316	2,556	6.1
セグメント間取引消去	△820	△685	134	—
連結売上高	40,940	43,631	2,691	6.6

(注)各セグメントの売上高は、セグメント間の内部売上高を含んでおります。

## セグメント別営業利益

(単位：百万円)

	前第1四半期 (2023年3月期第1四半期)	当第1四半期 (2024年3月期第1四半期)	増減	
			増減	増減率 (%)
訪販グループ	2,467	1,554	△913	△37.0
フードグループ	1,266	1,780	514	40.6
その他	271	165	△105	△38.9
小計	4,005	3,500	△504	△12.6
セグメント間取引消去 及び全社費用	△1,330	△1,480	△149	—
連結営業利益	2,674	2,020	△654	△24.5

(注)各セグメントの営業利益は、セグメント間の取引を含んでおります。

## ①訪販グループ

訪販グループは、主力のクリーンサービス事業が減収となったこと等により、売上高は前年同期から1億85百万円(0.7%)減少し269億3百万円となりました。利益面につきましては、計画に沿って進めているRFID(電子タグ)取り付けに伴う原価上昇等により営業利益は前年同期から9億13百万円(37.0%)減少し15億54百万円となりました。

訪販グループ主力のクリーンサービス事業は、事業所向けの売上が増加したものの家庭向けの売上が減少したことで全体の売上は減少しました。

家庭向け商品につきましては、前期にリニューアルした「ロボットクリーナーSiRo」や蛇口直結タイプの小型浄水器、前期7月1日からの価格改定に備えて駆け込み需要があった台所用スポンジ等の売上が減少したこと等で全体では売上は減少しました。しかしながら、前期から展開しております営業専任組織は、当期より加盟店へ拡大展開しており、新しいお客様作りの活動で成果を挙げつつあります。一方の事業所向け商品につきましては、依然高い衛生対策ニーズの下で、抗菌・抗ウイルス加工を施した高機能マットが好調に推移しており、主力商品であるマット商品全体の売上が増加したことで、全体でも売上は増加しました。

ケアサービス事業(役務提供サービス)のお客様売上につきましては、「ホームリペア」(住まいのピンポイント補修)は減少したものの、「サービスマスター」(プロのお掃除サービス)、「メリーメイド」(家事代行サービス)、「トータルグリーン」(緑と花のお手入れサービス)は拠点数の増加に伴い増加した他、前期10月に価格改定を行った「ターミニックス」(害虫獣の駆除と総合衛生管理)も増加しました。

訪販グループのその他の事業につきましては、化粧品関連事業、ユニフォーム関連事業が減収となりましたが、イベントがコロナ拡大以前の状況に戻りつつあることでレントオール事業(日用品・イベント用品等のレンタル)が増収となった他、引き続き好調を維持しているヘルスレント事業(介護用品・福祉用具のレンタルと販売)、ライフケア事業(ご高齢者の暮らしのお手伝い)も増収となりました。

## ②フードグループ

フードグループは、主力事業であるミスタードーナツの全店合計お客様売上が増加し、原材料売上、ロイヤルティ売上が増加したこと等により、売上高は前年同期から27億12百万円(25.3%)増加し134億28百万円、営業利益は前年同期から5億14百万円(40.6%)増加し17億80百万円となりました。

ミスタードーナツは前期からの好調を維持しており、来店お客様数、お客様単価とも前年同期を上回った結果、1店当たりのお客様売上は前年同期を上回りました。また、新規出店により稼働店舗数が増加し、全店合計お客様売上も前年同期を上回りました。商品別に見ますと、7年目となった宇治茶専門店「祇園辻利」との共同商品開発の取り組み「misdo meets 祇園辻利」は、当期もお客様から大変支持されました。また、各種定番商品の周年企画第1弾として、ポン・デ・リング20周年記念商品として発売した「白いポン・デ・リング」が大変好評で、売上増加に大きく寄与しました。更には、ミスタードーナツへの利用機会を広げていくために注力している、軽食需要に対応する「ミスドゴハン」シリーズでは、もっちりとザクザクの2つの食感を楽しめるリング型の生地には2種類の具材を入れた「ザクもっちリング」を6月に発売し人気を得たことも、来店お客様数増加に寄与しました。

フードグループのその他の事業は、店舗数が減少したパイ専門店「パイフェイス」は減収、とんかつレストラン「かつアンドかつ」は増収となりました。

## ③その他

その他は、海外事業の売上高が減少しましたが、国内連結子会社の売上高が増加したことで、全体の売上高は前年同期から29百万円(0.7%)増加し39億84百万円となりました。しかしながら営業利益は、国内の連結子会社の人件費等の増加影響が大きく、前年同期から1億5百万円(38.9%)減少し1億65百万円となりました。

国内で展開している、病院施設のマネジメントサービス(株式会社ダスキンヘルスケア)、並びにリース及び保険代理業(ダスキン共益株式会社)は共に増収となりましたが、人件費の上昇等により原価、経費が増加し減益となりました。

海外事業につきましては、中国でのダストコントロール商品のレンタルと販売(楽清(上海)清潔用具租賃有限公司)が、大口チェーン店の解約影響で減収、マレーシアを中心にドーナツ事業を展開しているBig Appleグループも減収となりました。

## (2) 財政状態に関する説明

当第1四半期連結会計期間末における総資産残高は、1,945億18百万円となりました。前連結会計年度末(以下「前期末」という。)と比較して30億6百万円減少しております。その要因は、有価証券が46億74百万円、現金及び預金が11億37百万円減少したことに対し、未収入金が18億5百万円、商品及び製品が7億79百万円増加したこと等であります。

負債残高は435億72百万円となり、前期末と比較して21億78百万円減少しております。その要因は、賞与引当金が24億57百万円、未払金が21億28百万円減少したことに対し、繰延税金負債が11億46百万円、流動負債その他が11億44百万円増加したこと等であります。

純資産残高は1,509億46百万円となり、前期末と比較して8億27百万円減少しております。その要因は、自己株式の取得等により、自己株式が12億31百万円増加(純資産は減少)、利益剰余金が6億72百万円減少したことに対し、その他有価証券評価差額金が11億94百万円増加したこと等であります。

## (3) 連結業績予想等の将来予測情報に関する説明

2024年3月期(2023年4月1日～2024年3月31日)第2四半期累計期間及び通期の業績予想につきましては、2023年5月15日に公表した従来の予想を変更しておりません。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2023年6月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	18,207	17,070
受取手形、売掛金及び契約資産	11,553	11,423
リース債権及びリース投資資産	1,003	1,007
有価証券	19,864	15,190
商品及び製品	8,212	8,992
仕掛品	290	280
原材料及び貯蔵品	2,629	2,803
未収入金	5,666	7,472
その他	1,707	2,286
貸倒引当金	△13	△14
流動資産合計	69,122	66,513
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	45,027	45,213
減価償却累計額	△30,546	△30,823
建物及び構築物（純額）	14,481	14,389
機械装置及び運搬具	26,141	26,971
減価償却累計額	△18,754	△19,059
機械装置及び運搬具（純額）	7,386	7,912
土地	22,439	22,439
建設仮勘定	320	292
その他	15,715	15,872
減価償却累計額	△11,267	△11,480
その他（純額）	4,448	4,391
有形固定資産合計	49,076	49,424
無形固定資産		
のれん	253	227
ソフトウェア	5,645	5,284
その他	1,556	1,645
無形固定資産合計	7,454	7,157
投資その他の資産		
投資有価証券	61,743	61,874
退職給付に係る資産	2,987	2,989
繰延税金資産	887	922
差入保証金	5,260	5,014
その他	1,012	641
貸倒引当金	△19	△19
投資その他の資産合計	71,871	71,422
固定資産合計	128,402	128,004
資産合計	197,524	194,518

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2023年6月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	7,594	8,471
未払法人税等	1,147	215
賞与引当金	4,022	1,565
未払金	9,759	7,630
レンタル品預り保証金	8,771	8,760
その他	5,537	6,681
流動負債合計	36,832	33,326
固定負債		
長期借入金	1,115	1,115
退職給付に係る負債	5,850	5,979
資産除去債務	607	626
長期預り保証金	982	1,016
長期未払金	9	9
繰延税金負債	352	1,499
固定負債合計	8,917	10,246
負債合計	45,750	43,572
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	11,352	11,352
資本剰余金	11,088	11,088
利益剰余金	124,943	124,270
自己株式	△7,102	△8,334
株主資本合計	140,282	138,377
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	8,532	9,727
繰延ヘッジ損益	△0	△0
為替換算調整勘定	245	278
退職給付に係る調整累計額	2,300	2,160
その他の包括利益累計額合計	11,078	12,166
新株予約権	49	49
非支配株主持分	364	352
純資産合計	151,774	150,946
負債純資産合計	197,524	194,518



(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
 (四半期連結損益計算書)  
 (第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年6月30日)
売上高	40,940	43,631
売上原価	22,025	24,638
売上総利益	18,915	18,993
販売費及び一般管理費	16,240	16,972
営業利益	2,674	2,020
営業外収益		
受取利息	35	58
受取配当金	191	193
設備賃貸料	45	41
受取手数料	69	64
持分法による投資利益	50	94
その他	362	252
営業外収益合計	755	704
営業外費用		
支払利息	0	0
設備賃貸費用	33	31
解約違約金	0	31
棚卸資産廃棄損	29	—
その他	21	65
営業外費用合計	84	127
経常利益	3,345	2,597
特別利益		
固定資産売却益	1	1
特別利益合計	1	1
特別損失		
固定資産廃棄損	14	21
特別損失合計	14	21
税金等調整前四半期純利益	3,333	2,576
法人税等	1,259	881
四半期純利益	2,074	1,694
非支配株主に帰属する四半期純利益	14	15
親会社株主に帰属する四半期純利益	2,059	1,678

(四半期連結包括利益計算書)  
(第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年6月30日)
四半期純利益	2,074	1,694
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	597	1,201
為替換算調整勘定	95	11
退職給付に係る調整額	△282	△138
持分法適用会社に対する持分相当額	11	14
その他の包括利益合計	421	1,088
四半期包括利益	2,496	2,782
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	2,478	2,766
非支配株主に係る四半期包括利益	17	16

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項  
(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当社は、2022年11月8日開催の取締役会決議に基づき、当第1四半期連結累計期間において自己株式397,900株の取得を行いました。この結果、「従業員持株会信託口」が保有する当社株式の処分等による増減も含めて自己株式が1,231百万円増加し、当第1四半期連結会計期間末において自己株式が8,334百万円となっております。

(セグメント情報等)

## 【セグメント情報】

①前第1四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)

イ. 報告セグメント毎の売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位: 百万円)

	訪販 グループ	フード グループ	その他 (注1)	計	調整額 (注3)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注4)
売上高						
クリーンサービス事業	20,066	—	—	20,066	—	20,066
ケアサービス事業	3,459	—	—	3,459	—	3,459
ミスタードーナツ事業	—	10,296	—	10,296	—	10,296
その他	3,413	415	2,725	6,554	—	6,554
顧客との契約から生じる収益	26,939	10,712	2,725	40,377	—	40,377
その他の収益(注2)	—	—	563	563	—	563
外部顧客への売上高	26,939	10,712	3,288	40,940	—	40,940
セグメント間の内部売上高 又は振替高	149	4	666	820	△820	—
計	27,089	10,716	3,954	41,760	△820	40,940
セグメント利益又は損失(△)	2,467	1,266	271	4,005	△1,330	2,674

(注)1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、事務用機器及び車両のリース、保険代理業、病院のマネジメントサービス及び海外事業等を含んでおります。

2. 「その他の収益」は、事務用機器及び車両のリースから発生しております。

3. セグメント利益又は損失(△)の調整額△1,330百万円には、セグメント間取引消去5百万円、各報告セグメントに配賦していない全社費用△1,336百万円が含まれております。

4. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

ロ. 報告セグメント毎の固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

なお、のれんの当第1四半期連結累計期間の償却額及び当第1四半期連結会計期間末の残高は以下のとおりであります。

(単位: 百万円)

	訪販 グループ	フード グループ	その他	全社・消去	合計
当第1四半期連結累計期間償却額	19	3	2	—	25
当第1四半期連結会計期間末残高(注)	219	25	51	—	296

(注) 当第1四半期連結会計期間末残高の主な内容は、当社及び連結子会社が複数の加盟店から事業譲受した際に発生したのれん残高208百万円(訪販グループ)、25百万円(フードグループ)、2017年2月に取得したBig Apple Worldwide Holdings Sdn. Bhd. のれん残高51百万円(その他)であります。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

## ②当第1四半期連結累計期間(自 2023年4月1日 至 2023年6月30日)

## イ. 報告セグメント毎の売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:百万円)

	訪販 グループ	フード グループ	その他 (注1)	計	調整額 (注3)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注4)
売上高						
クリーンサービス事業	19,584	—	—	19,584	—	19,584
ケアサービス事業	3,517	—	—	3,517	—	3,517
ミスタードーナツ事業	—	12,982	—	12,982	—	12,982
その他	3,647	428	2,891	6,967	—	6,967
顧客との契約から生じる収益	26,749	13,411	2,891	43,051	—	43,051
その他の収益(注2)	—	—	579	579	—	579
外部顧客への売上高	26,749	13,411	3,471	43,631	—	43,631
セグメント間の内部売上高 又は振替高	154	17	513	685	△685	—
計	26,903	13,428	3,984	44,316	△685	43,631
セグメント利益又は損失(△)	1,554	1,780	165	3,500	△1,480	2,020

(注)1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、事務用機器及び車両のリース、保険代理業、病院のマネジメントサービス及び海外事業等を含んでおります。

2. 「その他の収益」は、事務用機器及び車両のリースから発生しております。

3. セグメント利益又は損失(△)の調整額△1,480百万円には、セグメント間取引消去6百万円、各報告セグメントに配賦していない全社費用△1,486百万円が含まれております。

4. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

## ロ. 報告セグメント毎の固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

なお、のれんの当第1四半期連結累計期間の償却額及び当第1四半期連結会計期間末の残高は以下のとおりであります。

(単位:百万円)

	訪販 グループ	フード グループ	その他	全社・消去	合計
当第1四半期連結累計期間償却額	22	1	2	—	26
当第1四半期連結会計期間末残高(注)	170	13	42	—	227

(注)当第1四半期連結会計期間末残高の主な内容は、当社及び連結子会社が複数の加盟店から事業譲受した際に発生したのれん残高165百万円(訪販グループ)、13百万円(フードグループ)、2017年2月に取得したBig Apple Worldwide Holdings Sdn.Bhd.ののれん残高42百万円(その他)であります。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。